

しんようじゆ
針葉樹

しんじょうよう じょう かたち
◎針状葉：はりやトゲ状の形

イチイ (オンコ、アララギ)

イチイ科 イチイ属 (常緑高木)

がくめい 学名：*Taxus cuspidata* えいめい 英名：Japanese Yew



尖るが
痛くない

見分けるポイント



- ・葉：短い線のような形で扁平、裏に黄緑色の2本線、先が尖るがいたくない
若い枝にはらせん状で、しだいに左右2列につく
- ・幹：皮が赤褐色で、浅く縦に裂ける
- ・果実：赤い実は食べられるが、中の種には毒がある
- ・材の色が朱色をおびているので赤木 (アカギ)



→東北地方の愛称「アカギッコ」→アッコ→オッコ→オンコ

- ・イチイは木目が美しいので朝廷の高官が笏の材料として使用したため、一番位の高い木とされたことから

ハイヌガヤ (エゾイヌガヤ)

イヌガヤ科 イヌガヤ属 (常緑低木)

がくめい 学名：*Cephalotaxus harringtonia* えいめい 英名：(Plum-yew)

尖るが
痛くない

見分けるポイント



- ・葉：線形で扁平、らせん状につくが枝を中心に羽状に左右2列に並ぶ
先が急に尖るが痛くない、表は暗緑色、裏は2本の白い線 (気孔帯)
- ・幹：高さ1~2mの低木、斜上する、多雪地帯に適応している
- ・果実：雌雄異株、淡い紅紫色~紅色に熟す、ヤニくさいが可食 (果実酒)

トドマツ

マツ科 モミ属 (常緑高木)

学名 : *Abies sachalinensis*

英名 : Sakhalin fir

先が2つに割れる
裏に白い2本線



見分けるポイント

- ・葉 : 短い線のような形で、先が2つに分かれている
裏には白い2本の線がありらせん状につく、柔らかい感じ
- ・幹 : 皮は灰白色、多数の樹脂(マツヤニ)溜まりがある
- ・枝 : 一年ごとに一段ずつ輪生し、水平か斜上してのびる

アイヌ語 : トトロップ

・椴 : 枝が輪生して段になることからこの字があてられたといわれる

・ムズルセ川トドマツ希少個体群保護林(知内町) : 自生南限地帯のトドマツ

なめらかな幹と樹脂溜まり

アカエゾマツ (ヤチシンコ)

マツ科 トウヒ属 (常緑高木)

学名 : *Picea glehnii* 英名 : Sakhalin Spruce

見分けるポイント



先端が尖りチクチク
表も裏も緑色



うろこ状の幹

- ・葉 : 短い針のような形でらせん状につく、断面は四角形、表は濃い緑色、裏は薄い緑色

先が尖りチクチクする

- ・幹 : 皮が黒赤褐色、不規則で鱗をはり付けたように荒々しい

皮が赤みをおびた蝦夷の松 → アカエゾマツ

- ・枝 : 大きな枝を水平かやや垂れて出す

・「北海道の木」に指定されている、ピアノやバイオリンなどの材料

・国縫アカエゾマツ希少個体群保護林(長万部町国縫) : 黒松内低地帯以南では岩手県早池峰山(天然記念物)と共に貴重なアカエゾマツ自生地

ドイツウヒ (ヨーロッパトウヒ)

マツ科 トウヒ属 (常緑高木)

学名 : *Picea abies* 英名 : Spruce (ヨーロッパ原産)



見分けるポイント

小枝が垂れ下がる



らせん状につく



見分けるポイント

うろこ状の幹

- ・葉：針のような形でらせん状につく、暗緑色で光沢がある
断面は四角形で、4面に白色の気孔線がある
- ・幹：樹皮ははじめ褐色で老木になると黒っぽくなり、鱗状に厚くはげる
- ・球果：円柱形で成熟すると褐色になり垂れ下がる
- ・アカエゾマツに似るが、小枝が垂れ下がること、葉が長いこと、球果が大きいことで区別できる
- ・北海道では明治中期以降、鉄道防風林などに広く植栽された

カラマツ (ラクヨウ、ニホンカラマツ)

マツ科 カラマツ属 (落葉高木)

学名 : *Larix kaempferi* 英名 : Japanese Larch



見分けるポイント

秋に黄葉し落葉



球果



たば状



見分けるポイント

縦長のうろこ状

- ・葉：線のような形で扁平、短枝には20~40本が束状につく
長枝には、らせん状につく
秋に黄葉し落葉する、落葉松
冬芽は球形でらせん状につく
- ・幹：通直にのびる、樹皮は灰褐色
細長い縦の鱗状で剥がれる
- ・もともと北海道には生えていなかったが、多く植えられている

アカマツ (メマツ)

マツ科 マツ属 (常緑高木)

学名 : *Pinus densiflora* 英名 : Japanese red pine



見分けるポイント



- ・葉：針のような細長い形、2本が一束でつく
付け根は赤っぽいもので束ねられている
しなやかで柔らかい感じ、断面は半円形、
- ・幹：皮は赤褐色、亀の甲羅状に割れ、鱗状に剥がれる
- ・昔から長寿のお祝いなどに用いられる (門松・松竹梅)
- ・葉が二股に分かれるからマタ (股) → マツ
- ・内陸部に育ちやすい、アカマツ街道 (七飯町)

クロマツ (オマツ)

マツ科 マツ属 (常緑高木)

学名 : *Pinus thunbergii* 英名 : Japanese black pine



見分けるポイント



- ・葉：針のような細長い形、2本が一束でつく
付け根は白っぽいもので束ねられている
アカマツより太くて緑も濃い、断面は半円形
先が強く尖り、触るとごわごわして痛い
- ・幹：皮が黒っぽい、亀の甲羅のように割れている
- ・海岸の防風林に多い、砂坂海岸林 (江差町)

ハイマツ

マツ科 マツ属 (常緑低木)

学名: *Pinus pumila* 英名: Creeping Pine

群落



見分けるポイント

5本一束

球果

- 高山帯に生え良く枝分かれする
- 葉: 針状、5本一束、断面は3稜形、背面は深緑色、内面は白線2本
- 幹: 根元は匍匐、先はやや斜上する

スギ

スギ科 スギ属 (常緑高木)

学名: *Cryptomeria japonica* 英名: Japanese Red Cedar



見分けるポイント

- 葉: 鎌のような形のトゲがらせん状につく、断面はひし型
- 幹: 通直、樹皮は赤褐色で、細長く縦に裂ける
- スギ=直木(すくき): 幹が真っすぐ上にのびる木
- ノ形の葉がたくさんつくことから「木偏に杉」は俗説
- (「杉」は、本来、中国のコウヨウザンのこと)



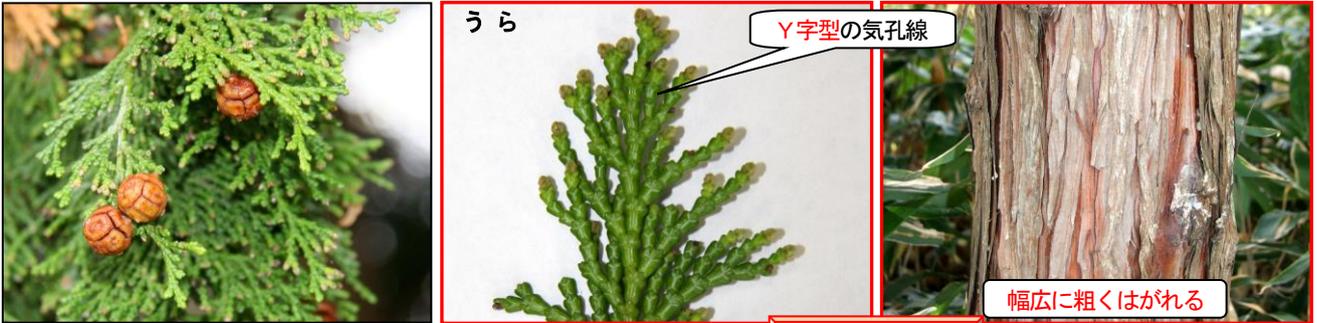
細長く縦に裂ける

しんようじゆ
針葉樹

りんじょうよう かたち
◎**鱗状葉：うろこの形**

ヒノキ ヒノキ科 ヒノキ属 (常緑高木)

がくめい 学名：*Chamaecyparis obtusa* えいめい 英名：Hinoki Cypress

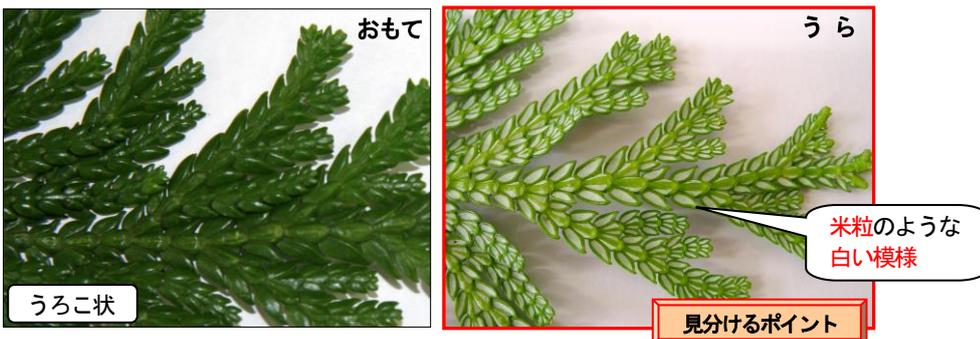


見分けるポイント

- ・葉：**鱗状**の細かな葉が連なる、裏は淡緑色で白い**Y字型の気孔線**がある
- ・幹：樹皮は赤褐色でスギに似るが、**幅広**に縦に裂けて**粗くはがれる**
- ・球果：直径約1cmの球形で、成熟すると赤褐色になる
- ・本州では古くから、スギとともに建築用として植林されている

ヒノキアスナロ (ヒバ) ヒノキ科 アスナロ属 (常緑高木)

がくめい 学名：*Thujopsis dolabrata* えいめい 英名：(Hiba Arbor-vitae)



見分けるポイント

- ・葉：**鱗状**の細かな葉が連なる、表は濃緑色で厚くつやがあり先は尖る
裏に米粒のような**白い模様** (気孔線) がある 《武者絵のまゆ毛、牛の角》
- ・幹：皮は赤褐色、縦に長く裂ける
- ・**厚い葉のヒノキ**→厚葉檜→アツハヒノキ→アスハヒノキ (方言名)
- ・和名の**ヒノキアスナロ**は植物学者の牧野富太郎が命名
- ・ヒノキアスナロおよびアオトドマツ自生地 (江差町 榎川)：天然記念物、北限地帯のヒノキアスナロ

□

ニオイヒバ ヒノキ科 クロベ属 (常緑高木)

学名: *Thuja occidentalis* 英名: Northan white cedar (北アメリカ中北部原産)

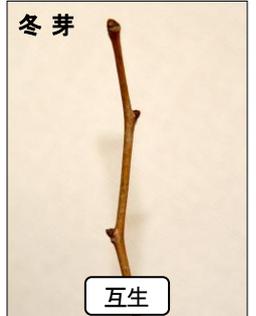
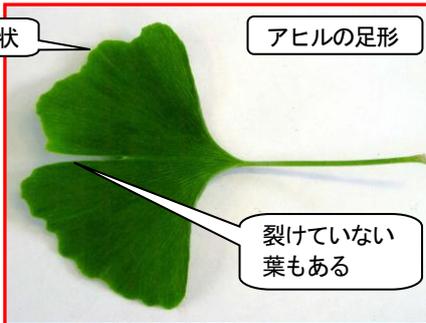


- ・葉: 鱗状の細かな葉が連なる、先は尖る、卵形で平たい、表は濃緑色、裏は青緑色
葉をつぶすと強い香りがある→ニオイヒバ
- ・幹: 赤褐色または灰褐色、浅く長く剥がれる
- ・球果: 長だ円形
- ・葉から精油をとり薬用にする、生垣などに利用される

針葉樹 ◎扇状葉: おうぎの形

イチョウ イチョウ科 イチョウ属 (落葉高木)

学名: *Ginkgo biloba* 英名: Maidenhair tree (中国原産)



- ・葉: 扇・アヒルの水かきの形、薄い革質、2裂するか波状の鈍鋸歯
葉柄は長い、葉脈は分岐して平行しふちに達する、
長枝では互生、短枝では束生、秋に黄葉し落葉する
- ・幹: 淡い灰褐色、不揃いの浅い縦裂
- ・冬芽: 円錐形~三角状卵形、多数の褐色鱗片、葉痕の維管束2個
- ・果実: 外皮は黄色い肉質で臭気強い、果肉をさわるとかぶれる、種子は食用(ギンナン)
- ・恐竜がいた時代からある木、中国原産、長命で萌芽力が強い、まな板の材料、雌雄異株
- ・「鴨脚」ヤーチャオ(中国宋時代の発音)→イーチャオ→イチョウ

こうようじゆ
広葉樹

うじょうふくよう はね かたち
◎羽状複葉：羽のような形

イヌエンジュ

マメ科 イヌエンジュ属 (落葉高木)

がくめい 学名：*Maackia amurensis* えいめい 英名：(Maackia)



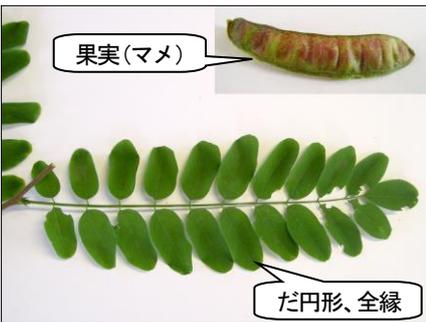
- 葉：互生、奇数羽状複葉、小葉は7~13枚、卵形で全縁
基部は円形~切形、表は深緑色、裏は緑白色、
若葉は裏に細毛を密生し銀白色
- 花：複総状花序、黄白色、蝶形花
- 冬芽：互生、広卵形~卵形で先は尖る、短軟毛、2~3枚の芽鱗、
仮頂芽は側芽より大きい



ニセアカシア (ハリエンジュ)

マメ科 ハリエンジュ属 (落葉高木)

がくめい 学名：*Robinia pseudo-acacia* えいめい 英名：Locust tree (北アメリカ東部原産)



- 葉：奇数羽状複葉、互生、小葉は7~19枚、だ円形で全縁 (滑らか)
- 枝：トゲは托葉針、葉の左右に2本
- 花：下垂する総状花序、白色の蝶形花
- 冬芽：互生、3裂した葉痕の中に隠れて見えない、葉痕とトゲは「コウモリの顔」に似ている
- 葉がアカシアに似ているから「ニセ」のアカシア → ニセアカシア
- トゲがありエンジュの葉に似ているから → ハリエンジュ
- 明治初期に渡来した帰化植物、適地を選ばず繁殖力が強い、蜂蜜がとれる

オニグルミ

クルミ科 クルミ属 (落葉高木)

学名 : *Juglans mandshurica* 英名 : Japanese Walnut



枝先に葉が集中



1枚の葉(うら)

短い毛

葉痕
ヒツジ?
サル顔?



冬芽

円錐形の裸芽

互生



縦に深く裂ける



果実

- ・葉 : 互生、奇数羽状複葉、枝先に集中、小葉は9~19枚
長だ円形、裏に星状毛、小葉に葉柄はない
- ・幹 : 暗灰褐色、深く縦に裂ける、若木は灰白色で平滑
- ・果実 : 堅い殻が鬼の顔に似ている → オニグルミ、種子は食用
- ・冬芽 : 裸芽で互生、円錐形または円錐状卵形、先端は尖る
葉痕はT字形 (羊や猿の顔に似る)
黄褐色または濃褐色で短い毛が密生、頂芽は側芽より特に大きい

サワグルミ (カワグルミ)

クルミ科 サワグルミ属 (落葉高木)

学名 : *Pterocarya rhoifolia* 英名 : Wingnut



先は尖る

狭長だ円形



うら

細鋸歯

茶色の毛



果穂



冬芽

毛

裸芽

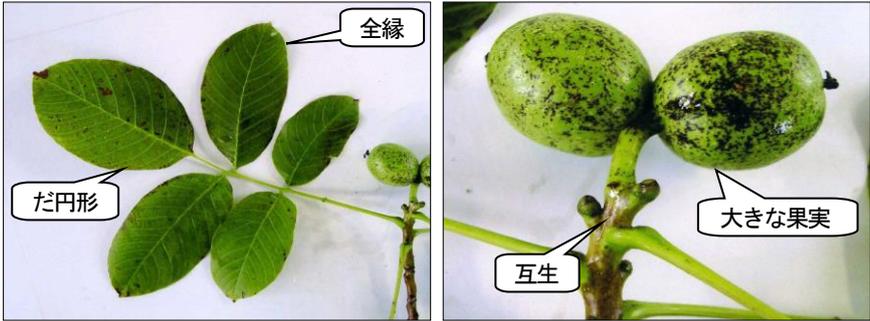
互生

心型の葉痕

- ・葉 : 互生、奇数羽状複葉、細鋸歯縁、両面に軟毛を散生
鋭尖頭、小葉は9~12枚、側小葉は狭長だ円形で無柄
頂小葉はだ円~長だ円で有柄
- ・冬芽 : 裸芽で互生、紡錘形で先端は尖る、柔らかい毛に包まれる
頂芽は側芽より大きい、葉痕は心形または腎形~三角形
- ・沢沿いの湿ったところに生えるクルミ → サワグルミ

テウチグルミ (カシグルミ) **クルミ科** **クルミ属** (落葉高木)

がくめい えいめい げんさん
 学名 : *Juglans regia* 英名 : (Walnut tree) (イラン原産)



- ・葉 : 奇数羽状複葉、小葉 3~9 枚、だ円形~広だ円形、先端は円いかやや尖る、全縁
 互生、裏に毛、側小葉には短い葉柄があり頂小葉には長い葉柄がある
- ・果実 : ほぼ球形、種子は食用
- ・冬芽 : 互生、球状円錐形~円錐形で尖る、裸芽、2~3枚の芽鱗、頂芽は側芽より大きい

タラノキ (タランボ) **ウコギ科** **タラノキ属** (落葉低木)

がくめい えいめい
 学名 : *Aralia elata* 英名 : Japanese Angelica-tree



- ・葉 : 互生、2回羽状複葉、枝先に集中、小葉は5~9枚
 卵形~だ円形で対生し、ふちはギザギザの鋸歯
 枝や幹・葉の付け根にトゲ、若芽は食用 (タラの芽)、
- ・冬芽 : 互生、頂芽は円錐形または円錐状球形
 先端はやや尖る、3~4枚の芽鱗、頂芽は側芽より大きい
 葉痕はV字形またはU字形、維管束痕は30個位ネックレスのように並ぶ

